

「半木の道」を、あえて雨が降った直後に調査しましたが、水たまりができることもなく、多くの歩行者が歩いても凹むこともなく、車椅子、自転車が通っても問題がなく、ヒートアイランド現象を起こすこともない、まさに、私たちが求める『新しい地道』でした。管轄する京都府土木事務所の話によると、保守管理上についても、特段困難なことはなかったとのことでした。

ここ数年来の異常気象の中では、どのような舗装であれ、ヒートアイランド現象を引き起こしてしまいます。地球温暖化が進むとヒートアイランド現象はさらに酷くなるといわれています。

私たちは、「舗装化」の前に、「哲学の道」に合ったデザインの『新しい地道』という可能性を、京都市に模索していただくよう強く望みます。

どんな生き物にも（子ども、大人も、犬も、ランナーも、車椅子の方も、ホテルにも・・・）、なにより、桜をはじめとする動植物にも優しい『新しい道』を作れたら、地元の、京都の大きな財産として残せるのではないのでしょうか。

7日に開催されるデザイン検討会議に、哲学の道保勝会としても委員として参加させていただきますが、現時点におきまして、哲学の道保勝会として下記の通り要望いたします。

記

- 1、「地道」の良さを生かしながら、そこで生活する人、多くの訪れる人、動植物、文化など周辺環境と調和したデザインを検討すること。
- 2、一時的なデザインではなく、琵琶湖疏水と同じように百年、二百年先を見通したデザインを考えること。
- 3、将来にわたって維持管理が出来る手法により整備すること。
- 4、住民の合意形成が不可欠なことから第2回目以降の「デザイン検討会議」の進め方に関して、住民が気軽に集まり傍聴できるように第三錦小学校体育館等で開催すること、道路や遊歩道整備の専門家や樹木の育成に詳しい専門家を招き学ぶ場をもつこと、委員合同での現地調査を実施すること。

以上